

第12セッション 「環境政策評価諸手法の比較と評価B」

10. 完全雇用政策の環境評価

< 報告者 > 野上裕生 (日本貿易振興会アジア経済研究所)

地の利を得たせいか本年度の報告数は150に迫っており、京都で開催された割には各会場も盛況であった。来年度大会はつくば市で森田恒幸博士 (国立環境研究所) を中心に行われることになっており、学会の更なる飛躍が期待される。

(小島 宏記)

第64回日本民族衛生学会総会

日本民族衛生学会の1999年度大会 (会長: 菅原和夫 弘前大学医学部教授) は9月25~26日、同大学医学部コミュニケ-ションセンター (弘前市) で開催された。初日は下記の特別講演および会長講演が行なわれた。

- 特別講演 . 歩兵五連隊八甲田雪中行軍の謎
松本明知 (弘前大学医学部麻酔科教授)
- . ライフスタイルと健康
森本兼曩 (大阪大学医学部環境医学教授)
- . 豊かなる縄文文化
岡田康博 (青森県教育庁文化課文化財保護主幹)
- 会長講演 運動と活性酸素
菅原和夫 (弘前大学医学部衛生学教授)

2日目は約60題の一般口演がなされ、保健統計、疫学、人類生態など人口学に関連のある分野の発表も多数にのぼった。本研究所からは佐藤が参加し、「保健統計」の分科会で「わが国における未婚者の性行動の現状: 第11回出生動向基本調査の結果から」と題する発表を行なった。

(佐藤龍三郎記)

ヨーロッパ人口会議 (European Population Conference) : 1999年ハーグ (オランダ) に参加して

1999年8月30日 (月) ~ 9月3日 (金) の5日間、オランダのハーグにおいて、ヨーロッパ人口学会 (EAPS), IUSSP, NIDI 等の共催によるヨーロッパ人口会議 (1999年) が開催された。この会議はIUSSPの4年に1度の大会の中間年に行われており、今回で4回目になる (前回は1995年のミラノ大会)。本大会のメイン・テーマは「ヨーロッパ人口 - 多様性のなかの共通性 (European Populations: Unity in Diversity)」というものである。このテーマは、特に第2次大戦後から今日にかけて起こっているヨーロッパ地域の出生力、家族形成、健康・寿命、国際人口移動、高齢化、人口の増加と減少などの人口状況の変化について、その各国間の共通性と異質性を探り、ヨーロッパの人口状況の将来動向を知る手掛かりをうることを目指していると解することができる。

大会の主催者 (オランダ学際人口研究所 (NIDI) が中心) のより具体的な意図は共通論題のテー

マから明瞭に読みとれる。6つの共通論題では、方法論的テーマ（ライフコース・アプローチの有効法）を除くと、家族変動、労働力、(入)移民、高齢化という4つの実態的テーマをとりあげている。この4つのテーマは、そのまま今日のヨーロッパが直面する人口問題を表していると言えよう。しかし本大会の圧巻は、何と云っても、初日の第1の共通論題であり、そこで行われた、オランダの人口学の第一人者ヴァン・デ・カー（Dirk J. van de Kaa）による、ヨーロッパ全体の人口の歴史の変遷に関する長期展望についてのスピーチであった（このスピーチのもとになった氏の論文はDirk J. van de Kaa, “Europe and its Population : The Long View,” European Population Conference, European Populations: Unity in Diversity, Kluwer Academic Publishers, 1999, pp.1-50）。氏は大会のメインテーマであるヨーロッパ人口の共通性と多様性を歴史的に回顧すると同時に、ヨーロッパ社会は現在、氏の持論である「第2の人口転換」過程にあることを強調している。この「第2の人口転換」論は通常セッションでもレスタギー（Ron Lesthaeghe）によって2回にわたってとりあげられ、この考え方がヨーロッパの人口学者の間で一定の支持をえていることを感じさせられた。

大会の主要プログラムは以下の通りである。

共通論題

1. ヨーロッパとその人口：長期展望（基調講演：Dirk J. van de Kaa）
2. ヨーロッパ人はどのように家族を計画するか（同：Henry Leridon）
3. 誰がヨーロッパで働いているか（同：Giuseppe Gesano）
4. ヨーロッパの入移民圧力（同：Marek Okolski）
5. 高齢化社会における家族とライフコースパターン：現実、神話、疑問（同：Gunhild O. Hagestad）

通常セッション

- テーマA. 出生力、避妊、リプロダクティブ・ヘルス（1～4）
- テーマB. ヨーロッパにおける世帯と家族（1～4）
- テーマC. 健康、疾病、死亡（1～3）
- テーマD. 人口高齢化（1～3）
- テーマE. 人口構成（1～3）
- テーマF. 国際人口移動と地域人口移動
- テーマG. 国際人口移動（1～2）
- テーマH. 人口関連の政策と施策（1～2）
- テーマI. 人口と経済、社会・文化、環境の変化（1～4）
- テーマJ. 人口研究の理論と方法（1～4）

特別セッション

1. (特別共通論題) 人口問題に関する学際的関心（問題提起者：Hans J. A. van Ginkel）
2. ヨーロッパにおける人口学的変化と公的ならびに民間の政策対応：どのように取り組むか（問題提起者：Miroslav Macura）
3. ヨーロッパの人口統計の統一化をめざして（問題提起者：Aarno Laihonon）
4. 人口教育と情報に関するラウンド・テーブル（問題提起者：Ronald Shoenmaeckers）
5. ヨーロッパにおける育児休業制度：研究・政策課題に関するラウンドテーブル（問題提起者：Fred Deven）
6. ヨーロッパの人口研究と発表形態におけるインターネットの役割に関するワークショップ（問

題提起者：Jolanda Siebenga)

7. 国内人口移動と人口変動 (問題提起者：Lars Ostoby他)

8. 転換期の人口学：21世紀における人口専門家の教育・訓練に関するラウンドテーブル (問題提起者：Frans Willekens) (阿藤 誠記)

1999年イギリス人口学会年次大会

イギリス人口学会 (British Society for Population Studies) の1999年度大会は、9月6日から8日にかけて、アイルランド共和国の University of Dublin の University College で開催された。今年度の大会も、イギリスだけでなく、他のヨーロッパ諸国やアメリカから多数の研究者が参加し、相変わらずの盛況ぶりであった。

今年度のメインテーマは「高齢化」であり、Richard Disney (University of Nottingham), Albert Hermaline (University of Michigan), Mike Murphy (London School of Economics), James Vaupel (Max Planck Institute) などをパネラーにした特別セッションが行われた。この特別セッションでは、高齢化の進展とその社会的・経済的影響についての発表がおこなわれ、先進国だけでなく開発途上国をも視野に入れたグローバルな視点から、高齢化の問題が活発に議論された。

分科会では、出生、死亡、婚姻、人口移動、世帯、家族計画、歴史人口学などの各テーマごとに、多数の報告が行われた。また、大会の開催地がダブリンということもあってか、今年度の大会では、例年よりもアイルランドについての報告が目立っていた。特に、アイルランドの出生や死亡や人口移動のパターンを他のヨーロッパ諸国と国際比較した発表が多く見受けられた。(福田亘孝記)

国際社会学機構 (I I S) 第34回世界大会

国際社会学機構 (International Institute of Sociology, 会長：佐々木正道・兵庫教育大学教授) の第34回世界大会 (34th World Congress, 組織委員長：Eliezer BEN-RAFAEL テルアビブ大学教授) が1999年7月11日 (日) ~ 15日 (木) の5日間にわたって「グローバル化時代における複合的近代性 (Multiple Modernities in an Era of Globalization)」をテーマとしてイスラエルのテルアビブ大学で開催された。ただし、7月13日 (火) の午後のみはエルサレムのヘブライ大学へのエクスカージョンがあり、「和平過程におけるイスラエルとパレスチナの市民社会 (Israeli and Palestinian Civil Society in the Peace Process)」と題されたラウンドテーブルが開かれた。テーマを変えて毎朝行われる基調報告と毎晩開かれるシンポジウムやラウンドテーブルに加えて、日中に150以上のセッションが設けられ約600の報告がなされた。500人以上の参加者が世界数十カ国から参加し、佐々木会長をはじめとする日本人も十数名参加した。

人口に関連するセッション、特に人口移動に関連するものは場所柄比較的多かったが、人口関係者が組織したものは国際社会学会人口研究委員会 (ISA RC41) が組織した Vital Processes と Contemporary Migration の2セッションとイスラエル中央統計局が組織した Demographic Processes in Israel というセッションのみであった。なお、筆者は最初のセッションで Jean-Louis RALLU と共同で “Comparative Analysis of Fertility in Japan and France” という報告、Japanese Society from a Comparative Perspective と題されたセッションで “Determinants of Married Women’s Work Behavior in the Middle East and Japan” という報告を行った。(小島 宏記)